

## 令和6年度外郭団体活動状況評価シート No.1

【令和6年3月31日時点】

団体名	公益財団法人 千里リサイクルプラザ				所管部室（課）名 環境部 環境政策室				
所在地	〒565-0826	吹田市千里万博公園4番3号 吹田市資源リサイクルセンター内							
設立年月日	平成4年3月16日（財団法人設立）			代表者職・氏名	理事長 小幡 範雄				
基本財産	963,280,000円	①本市出資金（本市の出資割合） 円（%） ②本市出捐金（本市の出捐割合） 538,800,000円（約56%）							
設立目的	地球環境保全の重要性にかんがみ、地球温暖化の防止等を含む循環型社会の構築・推進に関する事業を展開し、もって持続可能な社会への転換に寄与することを目的とする。								
事業内容	(1)啓発・普及活動等に関する事業 (2)市民研究等に関する事業 (3)講演・講座の開催等教育に関する事業 (4)その他本法人の目的を達成するために必要な事業			(具体的な事業内容) (1)市民工房の運営 (2)市民の不用品の交換、物流を促進する事業 (3)環境問題及び環境保全活動推進に関する市民・事業者向け啓発事業 (4)調査研究に関する業務 (5)展示等に関する事業 (6)施設の使用許可及び使用料の徴収に関する業務 (7)視察・見学者の対応 等					
			合計（市職員及び元市職員以外も含む。）		合計（元市職員以外も含む。）				
			うち市職員		うち元市職員				うち元市職員
役員数（人）	理事 (取締役)	常勤	1	0	1	職員数 (人)	常勤	5	0
		非常勤	9	1	2		再任用(※1) 常時勤務	0	0
	監事 (監査役)	常勤	0	0	0		再任用(※1) 短時間勤務	0	0
		非常勤	2	0	1		非常勤	4	0
	65歳以上の役員数(※2) (人)	6		3	臨時雇用員		33		
評議員 (人)	9	1	1	65歳以上の職員数 (※2)	25	0			
元市職員に対する報酬や給与水準が、市再任用職員の水準を上回る。（いずれかに○）					該当	・	非該当		
【該当する場合のみ記載】内容									
元市職員に対して退職金を支給している。 (いずれかに○)					該当	・	非該当		
【該当する場合のみ記載】内容									

※1 再任用職員とは、61歳に達した日以降における最初の3月31日を超えて雇用されている職員をいう。

※2 65歳に達した日以降における最初の3月31日を超えて雇用されている役員数又は職員数。

## 令和6年度外郭団体活動状況評価シート No.2

【令和5年度決算】

団体名		公益財団法人 千里リサイクルプラザ			所管部室（課）名		
					環境部 環境政策室		
財務状況（円）	損益計算書	総収入	72,656,044	貸借対照表	資産の部合計	1,099,532,323	
		(うち 市受入金)	51,065,978		負債の部合計	10,484,218	
		(その他)	21,590,066		(うち 有利子負債)	0	
		総費用	68,544,981		正味財産合計	1,089,048,105	
		経常損益	4,111,063		(うち 一般正味財産)	31,496,105	
		当期損益	4,111,063				
市から団体への支出（円）	フロー	主な内容、算出根拠等					
		補助金					
		委託料	51,065,978		吹田市資源リサイクルセンター指定管理委託料		
		指定管理料					
		その他					
	ストック	計	51,065,978				
		貸付金残高					
		債務保証残高					
		損失補償残高					
		出資金（出損金）	538,800,000		出捐金		
		その他					
		計	538,800,000				

# 令和6年度外郭団体活動状況評価シート No.3

【評価対象期間:令和5年4月1日から令和6年3月31日まで】

団体名	公益財団法人 千里リサイクルプラザ	所管部室(課)名 環境部 環境政策室
-----	-------------------	-----------------------

## 1 団体による評価

### (1) 運営に関する評価

◎→できている  
△→一部できている  
×→できていない

指針の項目	評価項目	評価	評価の理由
組織及び人事管理	規程等を適切に整備している。	◎	・コンプライアンス及び柔軟な組織運営に向けた規程整備を実施。 ・交代制勤務による最少人数での事業執行体制を継続。
	団体の事業規模に応じた簡素で効率的な執行体制としている。	◎	・職員は欠員補充のみ実施。理事10名、監事2名体制継続。 ・物価上昇見合の賃上げは経営状況から難しいが、職員のモチベーション維持につながる給与施策を実施。
	団体の事業規模や経営状況に応じた役員数及び職員数としている。	◎	・OJTや相互教示による日常現場での研修に加えて、吹田市のハードクレーム対応マニュアルによる来館者対応力の向上、また学校教育ハンドブックによる施設見学時等のジェンダー・他人権問題への対応や個人情報保護の徹底等、各自が研鑽を積んでいる。
	採用における公正性・透明性を確保している。	◎	・環境社会検定(eco検定)については該当者全員が資格を取得。
	団体の経営状況に応じた役員報酬や職員給与としている。	◎	・各市民工房ではその存在意義と担うべき役割を明確にし、壁面に表示。 ・環境実践教室は一部をエコラボパートナーズ(協働)に変更し、効果的かつ効率的な運営に変更。アンケートでニーズに合ったシーズの提供に注力。
	職員研修の充実に努めている。	◎	・引続き印刷用紙消費量の削減や不要時の消灯を徹底。 ・財産管理は出捐金を安定的に高利率の国債での運用を継続。 ・公益財団法人として公的な検査(大阪府公益法人グループ)、会計士監査等で外部の専門家による監査を実施。
事業運営	事業の必要性や意義を見直しつつ、効果的、効率的な事業運営を行っている。	◎	・第2次中期計画に沿って、事業経営を進めている。 ・外部助成金獲得の努力継続とともに、クラウドファンディングについても検討開始。
	事業を継続的に点検し、市民ニーズに沿ったものとしている。	◎	・引続き印刷用紙消費量の削減や不要時の消灯を徹底。 ・財産管理は出捐金を安定的に高利率の国債での運用を継続。 ・公益財団法人として公的な検査(大阪府公益法人グループ)、会計士監査等で外部の専門家による監査を実施。
	中・長期的な経営計画を策定している。	◎	・HPに経営状況、事業計画を公開。
	自主財源の確保に努めている。	◎	・HPに役員及び評議員名簿、理事会や評議員会の議事録を公開。 ・HP、X、Instagram及び吹田市報、出張展示会等で情報発信。
	各種経費を可能な限り抑制している。	◎	・個人情報保護は、法律の立て付けの変更に伴い条文整備。 ・許可を得て収集したメールアドレスや評議員・役員他のマイナンバーは特に管理を徹底。
情報公開	最も確実かつ有利な方法で財産の管理運用を行っている。	◎	・個人情報保護は、法律の立て付けの変更に伴い条文整備。 ・許可を得て収集したメールアドレスや評議員・役員他のマイナンバーは特に管理を徹底。
	外部の専門家による監査を活用するなど監査体制の強化に努めている。	◎	・個人情報保護は、法律の立て付けの変更に伴い条文整備。 ・許可を得て収集したメールアドレスや評議員・役員他のマイナンバーは特に管理を徹底。
	団体の経営状況、事業計画を公開している。	◎	・個人情報保護は、法律の立て付けの変更に伴い条文整備。 ・許可を得て収集したメールアドレスや評議員・役員他のマイナンバーは特に管理を徹底。
	団体の役員名簿、会議録等を公開している。	◎	・個人情報保護は、法律の立て付けの変更に伴い条文整備。 ・許可を得て収集したメールアドレスや評議員・役員他のマイナンバーは特に管理を徹底。
情報公開	ホームページをはじめとする多様な手段で情報提供を行っている。	◎	・個人情報保護は、法律の立て付けの変更に伴い条文整備。 ・許可を得て収集したメールアドレスや評議員・役員他のマイナンバーは特に管理を徹底。
	個人情報保護に関する措置を適正に講じている。	◎	・個人情報保護は、法律の立て付けの変更に伴い条文整備。 ・許可を得て収集したメールアドレスや評議員・役員他のマイナンバーは特に管理を徹底。

## 令和6年度外郭団体活動状況評価シート No.4

【評価対象期間：令和5年4月1日から令和6年3月31日まで】

団体名	所管部室(課)名
公益財団法人 千里リサイクルプラザ	環境部 環境政策室

### (2) 事業に関する評価

#### ア 指標による評価

事業名	活動指標	令和5年度目標	令和5年度実績	(参考) 令和4年度実績
	成果指標			
啓発・普及活動に関する事業(視察・見学者の応対)	視察・見学での案内ボランティアの説明力・応対力の向上	案内ボランティアの応対力の向上	小学生への望ましい対応方法に係る情報を共有	小学生への望ましい対応方法に係る情報を共有
	視察・見学団体数	対前年比増	77団体(20.3%増)	64団体
啓発・普及活動に関する事業(環境啓発動画コンテスト事業)	環境啓発動画コンテストのさらなる普及	認知向上と参加者数の拡大	参加作品の質・数の充実	参加作品の質・数の充実
	応募作品数	対前年比増	96作品(29.7%増)	74作品
啓発・普及活動に関する事業(あげます・もらいますコーナー)	市民の資源循環及びリユース意識の普及と向上	リユースの意識向上	意識向上への継続的な対応が必要	意識向上への継続的な対応が必要
	参加件数(=持ち込み+持ち帰り件数)	(持ち込み+持ち帰り)件数対前年比増	2,642点(▲2.7%減)	2,717点

#### イ 指標で示すのが困難な場合

事業名	活動内容	成果内容
調査・研究及び実践活動	従来、研究報告書の発行や、市民研究員が吹田市主催の環境に係る会議の参加を以て、吹田市受託事業における調査・研究及び実践活動の成果としていた。本年度は事業趣旨の再考を踏まえて、新たな試みとしての主担研究員の環境問題に係る調査報告書、及びサロン形式による主担研究員と市民との交流の場「くるくるサロン」を開催した。過去の方式に捕らわれず、時流に沿った新たな事業展開を今後とも重視し対応を図る。	成果物としての環境に係る調査報告書の吹田市への提出。また主担研究員が主導者となり独自にテーマを設定し3回に亘って開催した「くるくるサロン」では、市民との届けのない直接の対話の場を提供したこと好意的に受け入れられ、ソフトなアプローチによる研究、実践活動として位置付けることができた。

### (3) 今後の取組方針

※(1)において◎以外とした事項、課題となっている事項について重点的に記載

<p>職員の待遇改善として生活を賄うに足る給与の確保は、長年に亘る当財団の課題である。指定管理者制度の元では当該指定管理期間において物価が上昇しても、それに見合う職員給与改定に充当できる受託料の増額はなく、また40歳から50歳が中心となってきている現行の人事構成では給与水準そのものが生計費としても不十分であることは否めない。令和5年度に退職職員の人事費を充当して一部に昇給制度を取り入れたが、これから職員採用にも係わる課題として、職員給与はさらに検討する必要がある。研修については、少人数かつ交代制勤務の職場では、職員が一同に会して一斉研修を受けることは現実的に非常に困難であり、事業運営にも支障をきたす恐れがある。従って当財団における研修のあり方については、基本的に各員による自己啓発の成果を職員相互で共有することが最も効果的であると考えている。また環境啓発を行う財団の職員として、環境に関わる基礎的で不可欠な知識については、当然有していないければならず、その勉強の機会として環境に関わる検定試験の資格取得を進めている。現在、環境社会検定(eco検定)については該当者が全員取得したので、さらなる知識の向上につながる3R・気候変動検定の取得に向けて準備を進めている。</p>
---

# 令和6年度外郭団体活動状況評価シート No.5

【評価対象期間：令和5年4月1日から令和6年3月31日まで】

団体名	公益財団法人 千里リサイクルプラザ	所管部室(課)名 環境部 環境政策室
-----	-------------------	-----------------------

◎→できている  
△→一部できている  
○→概ねできている  
×→できていない

## 2 市による評価

### (1) 団体の運営に関する評価

事項	評価項目	評価	評価の理由
団体の存在意義	市民福祉の向上に資する事業を行っている。	◎	循環型社会及び脱炭素社会の形成に向けて、市からの受託事業に加え、多様な自主事業を実施しており、市民に対するごみ減量・再資源化の啓発や本市第3次環境基本計画に掲げる重点戦略の推進などに貢献しているため。
	事業の成果が市の施策の推進に貢献している。	◎	
事業実施主体としての妥当性	市が直営で行うよりも効果的かつ効率的にサービスを提供している。	○	資源リサイクルセンター開設時より管理運営を担ってきた実績やノウハウを活用し、環境スクール、市民研究員による研修講座など、団体独自の事業を実施している。しかし、啓発手段及び啓発内容が旧来のものにとどまり、より効果的な啓発を行う余地があるため。
	多くの市民の理解が得られる活動を行っている。	○	

### (2) 団体の自己評価に対する市の見解

上述のとおり、(公財)千里リサイクルプラザは、循環型社会及び低炭素社会の形成に向けて、市からの受託事業に加え、多様な自主事業を実施しており、市民に対するごみ減量・再資源化の啓発や本市第3次環境基本計画に掲げる重点戦略の推進などに貢献している。例えば、比較的新しく開始した環境啓発動画コンテストは、地球温暖化、食品ロス、プラスチックごみ等の問題を様々な角度から応募者自らが考え、その内容を動画にすることで、応募者及び動画視聴者の環境意識の向上につながっている。また、くるくるキッズ環境スクールは、親子を対象とし、環境施設見学会、自然体験、工房体験等の連続講座を行うことで、若年層の啓発につながっている。一方、展示室を利用した展示等は、啓発内容及び啓発手段が旧来のものにとどまり、より効果的な啓発を行う余地がある。また、施設内の掲示が雑多で統一感に欠けるため、整理してわかりやすくすることや、利用者サービスの向上につながる新しい取組(例えば、フリーマーケットアプリ等を使用した再生成果品の広報、ホームページの見やすさ・ページ全体の統一感の改善等)にも積極的に取り組んでいく必要がある。

### (3) 市の関与に関する今後の方向性

(公財)千里リサイクルプラザは、資源リサイクルセンターの運営団体として、府、吹田市及び137社(者)の民間団体等からの出捐金を受け設立され、本市からも538,800千円を出捐している。平成4年のセンター開設時より、管理運営を担っており、平成18年度の指定管理者制度導入後は、市からの受託事業に加え、出捐金の運用益を活用した様々な自主事業を実施し、指定管理者として長期間にわたり、安定的な運営を行ってきた実績がある。団体の設立経緯や、市との連携体制を維持しながらの管理運営や事業展開を行ってきた実績を踏まえ、今後も積極的に団体との連携の強化を図るものとする。